



会議議事録

会議名	2022年度 地域リハ推進委員会
-----	------------------

開催概要

開催日時	オンライン上で相談 令和4年 11月 18日(金) 14:00~16:00
開催場所	オンライン会議
出席者 (敬称略)	委員長：平田好文 副委員長：大串幹 委員会顧問：浜村明德 齊藤正身 委員：内田正剛 岡持利巨 佐藤英雄 高柳公司 田中康之 松坂誠應 三宅貴志 欠席：岡 光孝、堀田富士子(名簿順)

議事内容

【議題1：報告 11月2日理事会の報告】資料：10月28日会議議事録 平田委員長より
以下の3つのポイント、理事会で承認された旨、共有

1. 会員施設への継続的調査の実施にあたり
地域リハ推進委員会の活動として、調査や報告などの活動を進める事、承認された。
2. ロードマップについて
 - ① 3年間かけて行う、当委員会の活動について提案し、承認された。
3. 研修会企画案について
 - ① 企画概要について、承認された。
 - ② 時期について調整し、3月12日へ

【議題2：11月2日の理事会報告・検討 調査について】

理事会の結果に基づき、調査の実施にあたり、ポイントを確認した。

1. 調査実施のポイント
 - ① 塾生が活動しやすくするように(経営者、活動者、活動者の周囲、地域の中)
 - ② 制度への成文化につながる事を目指す
 - ③ 二段階での調査実施へ理事会で日程調整された(年内では無く、1月以降へ)
 1. 第一段階は、1月頭に発信できる様準備、締切は、2週間程度。
 2. 第二段階は、
 - (ア) 570施設：回答数200で3割。
 - (イ) 回答依頼しつつ1月中に、第一段階は実施
 - (ウ) 回答あった施設には、順次 第2段階送付する

【議題3：検討 研修会企画の詳細について】

研修会企画について、詳細につき意見交換しつつ、プログラムの内容や担当者等を確認した。

1. 総合司会は、大串副委員長に依頼し承諾。
2. プログラム：各項目と講師に依頼する内容について意見交換し以下、確認した。



(1) 会長談「一緒に取り組みたい地域リハビリテーションの活動」

- ① 地域リハビリテーション塾への思い
- ② 体制整備から草の根活動まで
- ③ 会員施設全体で取り組みたい「地域共生社会」「地域包括ケアシステム」を推進する地域リハビリテーションの活動

(2) 塾生談「地域リハビリテーション塾に取り組んで」

- ① 0期生、1期生から、塾に参加した事で感じた事や学び、その後の活動など、会場にいる受講生にインタビューを行う（進行：小泉、岡持）
- ② 限られた時間であるため、塾生のみなさんとの事前の意思疎通を準備として行っておく
- ③ 当日会場で、協力してもらえよう、塾生のみなさんの参加を依頼
- ④ 環境や体制の整わない施設でも、草の根活動のように出来る事がある事や、一人ひとりの支援の際に、自施設以外の方との連携や丁寧な支援も「地域リハの活動」と思えるように

(3) 対談：「期待されるこれからの地域リハビリテーションの活動」

座長：浜村顧問、斉藤会長

講師：江澤和彦氏、上田幸輝氏、佐藤吉冲氏

- ① 日本医師会の立場から 江澤氏_20分
日本医師会 常任理事
介護保険・福祉(認知症を含む)、地域医療、精度管理、精神保健(障害を含む)、小児在宅ケア 担当
- ② 厚生労働省の立場から 老人保健課 地域リハ担当_20分
厚生労働省老健局老人保健課 高齢者リハビリテーション推進官
- ③ 施設管理者の立場から 塾生への思い 佐藤氏_20分
甲州リハビリテーション病院 病院長
- ④ ディスカッション_30分
 - ディスカッションのポイントについて意見交換。講師とも共有して、開催に臨む。
 - 地域リハの活動において、「当事者支援：その人らしさをしっかり支える」事と、「地域づくり：市町村や県と協力した大小様々な事業協力など」の両輪があること。
 - 「ある特定の人が行う活動」から、「誰でもが取り組める活動」へと、モデルチェンジしていけるよう、今後も継続して発信を行っていく。

(4) 委員会報告：2024年に向けた地域リハビリテーション推進委員会の活動（平田委員長）

【議題4：検討 当委員会の今後の活動について】

今後の委員会活動に向け、毎年実施する調査と報告や研修などについて意見交換し、以下の12点を確認し、今後の活動につなげる事となった。

1. 今後の当委員会活動を、年間での計画と数年単位で行う活動により、「地域リハビリテーションの推進」に向けた取組となる事を目指す
2. 調査は毎年6・7月に実施する（5月の協会誌でも協力を依頼）
3. 会員施設の取組をチェックシート等で、定期的に把握しつつ、フィードバックする。（調査項目に

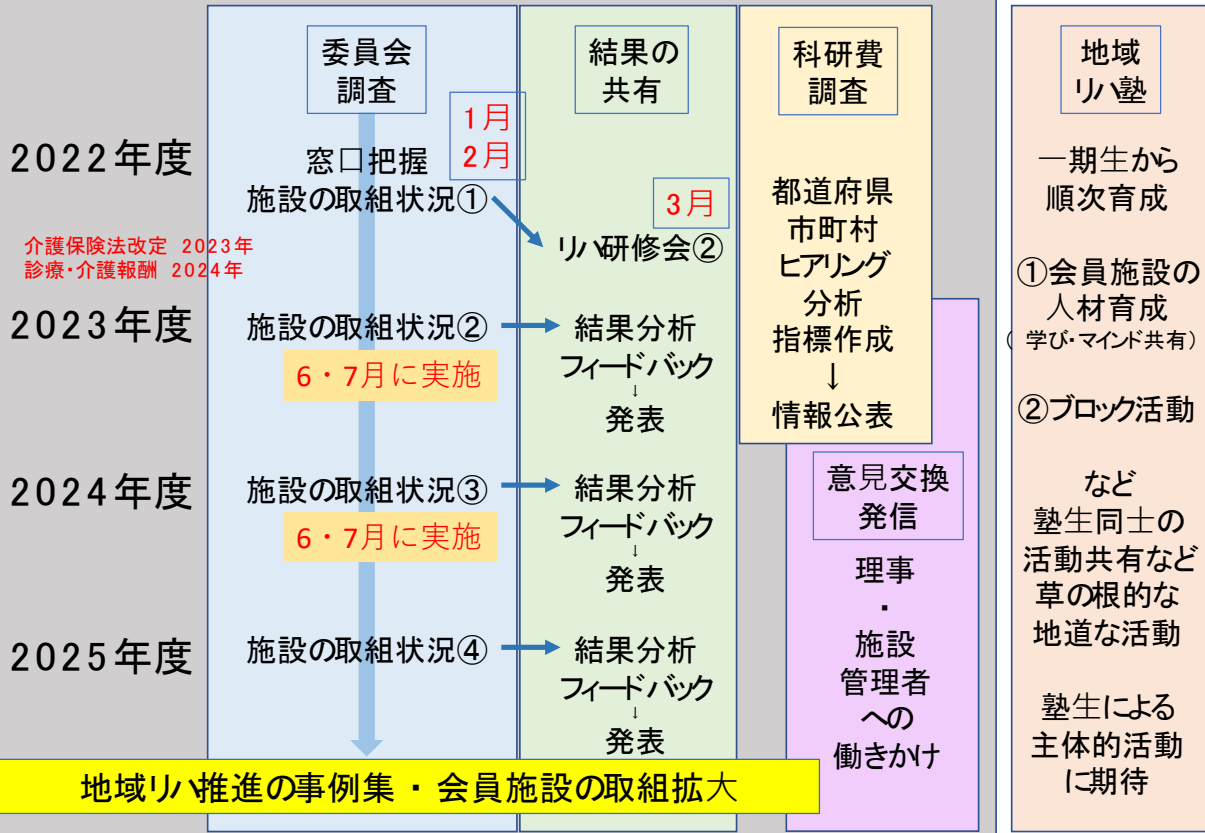


反映)

4. 障害の有無や程度に関わらず、「その人らしさをしっかり支える」支援については、本人抜きに考えたような、提供側の押しつけではなく、本人が参加して自分の意志で選び取る事が出来るような「多様で具体的な提案」となるよう、支援者側のスキルアップも欠かせない(本人の自分らしさを引き出す、動機づけ、含む)。これらについては、塾生の活動を見守りながら、多くの塾生を育む中で、草の根的な実践を増やし共有していく。
5. 地域包括ケアの指す言葉の変化も感じている。環境の要因として、人口減少、後期高齢者の増加、地域活動に参加したくない人、など「対象者」にも変化が。一方で、市町村事業等で、病院や事業所から出たの協力が増えるなど、「支援基盤」も変化してきている。これらの進捗や最適化が出来ているかについては、定点で測り、会員施設への情報提供を行う必要がある。
6. 毎年6・7月に行う調査によって、会員施設全体の参画状況や、自施設の進捗確認、活用出来ない制度の共有など、会員にとってのメリットとなるように情報発信を行う
7. 会員施設による、「自施設の取組を深化させ」「包摂性を高める活動」の実践例は共有したい。
8. 普及啓発は、「市民も・専門職も・行政も」対象に行い、かかりつけ医との連携においては、「プライマリケア」についても学びつつ、包含されるリハビリテーションの具体的内容の向上に対して、市民や医師会等関係機関とともに理解を深めたい。
9. 行政との連携においては、地域包括ケアの推進には、地域リハビリテーションの活動が役立つ実践例を共有し、そのための基盤整備を継続する。
10. 実践においては、「医療・介護の連携」や「地域づくり活動」の評価が指標となるため、前述のセルフチェックによる定点観測を役立てたい。
11. これまで明記したような取組を行い、「その人らしさをしっかり支え」、かつ「そのための地域の基盤を整える」といった活動を通して、結果として地域包括ケアが推進されるような活動を、全県・全市町村で活発に進めるためにも、「制度への位置づけ」や、「成文化」につながるような情報発信を、当委員会では実施していく。
12. 今後の活動については、下図のロードマップのように進めたい。



委員会活動のロードマップ



次回予定	未定、作業部会メンバーで調整し、委員会メンバーに相談		
議事録作成日	2022.12.23~27	議事録作成者	岡持利亘

委員会議事録は理事会資料として提出します。

会議終了後、1週間以内にメールで事務局へご提出ください。〔 提出先：info@rehakyoh.jp 〕